

学校概要

創立 43 周年	学校長 鈴木 彰	副校長 村越 直之	学期 2 学期制	児童・生徒数 335 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2			主な関係校: 山内中学校	

学校教育目標

「笑顔、輝き、勇輝」を「も・と・い・し・か・わ」でつくります。
 (も) もっと知りたい。もっとうまくなりしたい。いつも学ぶ姿勢を大切にします。(知)
 (と) 友だちづくりはあいさつから、仲間と助け合い、協力してやりとげます。(徳)
 (い) いつでも進んで運動したり、友だちと協力して健康・安全に気をつけたりします。(体)
 (し) 自分のよいところや友だちのよいところを進んで見つけます。(徳)
 (か) かかわり合いを大切にします。積極的に地域や地域の人たちとかかわります。(開)
 (わ) 私たちのまちの人やものを大切にします。(公)

学校の特徴

○開校43年目となる。たまプラーザ駅に近い住宅地で、落ち着いた地域である。保護者の教育への関心は高い。
 ○児童の多くは、塾やスポーツなどの習い事に通う。学習状況調査の結果は、横浜市の平均より高い(3年だけ低い)。
 ○はぐくみの会(PTA)、地域と連携し「地域防災ははぐくみフェスティバル」を行っている。おやじの会や学援隊の活動もあり、多方面から学校を支えていただいている。
 ○地域は歴史のある地域でもある。神輿が練り歩く等の伝統行事が行われ、歴史遺産も数多く残っている。各自治会は、学校に対して大変協力的である。

学校経営中期取組目標

(知)興味と関心を広げ、自分から課題を見つけ、課題解決に向けて、粘り強く取り組む子どもを育てます。
 (徳)他者の気持ちを考え、互いに尊重しあって生活する子どもを育てます。
 (体)心と体の健康を守ることに関心を持ち、望ましい生活習慣を身につけた子どもを育てます。
 (公)地域との関わり合いを大切に、地域から学ぶ子どもを育てます。
 (開)人とのコミュニケーションを通して、広い視野を持った子どもを育てます。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 山内中学校・山内小学校・新石川小学校・美しが丘西小学校・元石川小学校

9年間で育てる子ども像	○思いやりや感謝の気持ちを持ち、互いに尊重しあって生活できる子ども ○豊かに学び合い、社会の一員として自ら判断し、責任をもって行動できる子ども
自校の具体的取組	・児童生徒の定期的な交流を通して、異学年を意識しながら思いやりや感謝の気持ちを育てる。 ・特に6年生は、部活動体験や授業参観を通じて安心して中学校に進学できるようにする。 ・教職員同士の連携を図る。相互の授業参観をとおして小中接続のカリキュラムを作成したり、学力・特別支援・児童生徒指導等の情報交換をしたりして小中連携を推進していく。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・基礎基本の定着を図るとともに個に応じた学習支援を行う。 ・事業のユニバーサルデザイン化を図り、魅力ある授業の創造を目指す。	①学力学習状況調査を詳細に分析し、各学年で定着していない事項を洗い出す。その結果を基に弱点を克服する手立てを各学年で考え、1年間継続して指導していく。 ②「できた」「わかった」と子どもが実感する授業を構築する。 ③校内研究、研究会等の研修をもとに、個性や個人差に応じた指導の充実を図る。
豊かな心	・思いやりのある心を育て、他者と仲良く学校生活を送ると共に自分も大切に自信をもって学校生活を送れるようになる。	①道徳、学級活動、全校朝会、人権週間を使い、他者と自分を大切にすることを理解し実践できるように意図的に授業や活動を行っていく。 ②1年間を通して縦割り集会を行うとともに、年間3回縦割り給食を行い異年齢同士のつながりを強化し他者を思いやる気持ちを育てる。
健やかな体	健康について1年間のテーマを決め健康な体作りに全校で取り組む。1校1実践運動を継続的に取り組み体力の向上を目指す。	①学校保健委員会で1年間のテーマを決め、そのテーマに沿って各クラスで具体的な取組を決めて健康な体作りを行う。 ②1校1実践運動に「元小オリンピック」という名称で縄跳びや短距離走、ボール運動を取り上げ、縄跳び大会や50m記録会、ドッジボール集会を実施し体力の向上に励む。
人権教育	「誰もが安心して豊かに」学校生活が送れるような環境を整える。自他ともに掛念の無い存在であることを様々な機会をとらえ指導していく。	①一人ひとりが安心して学校生活が送れるよう、定期的に児童からアンケートを取ると共に、年数回、担任と児童との個人面談を行い、常に児童の実態把握に努める。特に「いじめ」は絶対に許さないと指導をしっかりと行う。 ②人権週間には外部の講師を招き、直接話を聞いたり、体験的な学習を行ったりする。
特別支援教育	一人ひとりの児童の個性や個人差をつかんで個に応じた指導を心がけるとともに、支援が必要な児童へのきめ細かい配慮を行う。	①YPアセスメントや個別の支援計画の作成を通して、支援や指導の充実を図る。 ②毎月の職員会議で児童の情報交換を行い、全職員で児童を育てる。 ③特別支援コーディネーターから、学習のユニバーサルデザインについて情報を提供してもらい、授業内容の改善や教室環境の整備を行っていく。
児童指導	児童に対し、全職員が共通した指導を行い、トラブル発生時には、事実関係をしっかりとらえた上で指導しきる。トラブル未然防止の観点から日頃の観察を綿密に行う。	①「元小スタンダード」に基づいて全職員が共通した指導をおこなう。 ②トラブル発生時には複数で事実関係をしっかりと聞き取り、児童が納得するまで指導をしきる。 ③トラブルを未然に防ぐ観点から児童の僅かな変化も見逃さない行動観察を行う。
保護者・地域連携	はぐくみの会(PTA)、地域との連携を深め、各種行事に積極的に参加する。学校運営協議会を有意義な会にするために情報の共有化を図る。	①積極的に学校から、学校便りや学校ホームページ、学級だより等で情報発信を行う。 ②はぐくみの会行事や地域行事に職員が積極的に参加することで信頼を得るようにする。 ③学校運営協議会で、学校が抱える課題を情報共有し、学校にとって有効なご示唆をいただき地域と共に学校づくりを行っていく。
いじめへの対応	常に寄り添う指導を行いながら、一人ひとりの様子をよく観察し、僅かな変化も見逃さない教師力量を高めると同時に事案を察知した場合は迅速なチーム対応を行う。	①「いじめ」防止のために子どもへのアンケート回数を増やす。児童との面談も実施する。 ②いろいろな場面を捉え、道徳的、人権的な取組を行い、いじめの未然防止に努める。 ③いじめが起きた場合は、チームとして迅速に対応し毅然とした態度で指導する。保護者との連携もと、家庭と学校で共通した認識のもと指導を行う。
人材育成・組織運営	教職員一人ひとりが学校運営の主体者であるという当事者意識をもつと共に、メンターチームやプロジェクトで後輩の育成に努める。	①校務分掌を大きく2つのプロジェクトチームにして、チームとして課題解決を行う。 ②10年次位までの職員でメンターチームをつくり、楽しみながらチーム運営を通して、自身自身や後輩の教師力向上に努める。 ③キャリアステージに応じた授業研究会や研修会に参加し自ら教師力向上に努める。